



広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
 京都大学医学部人間健康科学科



学位授与式を終えて記念写真をする学生（2023年3月）

目次

○専攻長・学科長メッセージ	青山 朋樹… 2	○新規博士	12
○退任挨拶		看護科学コース	石川 信仁…14
元専攻長・学科長		リハビリテーション科学コース 作業療法学講座	馬場 千夏…14
総合医療科学コース	教授 足立 壯一… 3	リハビリテーション科学コース 作業療法学講座	濱田 昌義…15
元先端看護科学コース	教授 田村 恵子… 3	看護科学コース	宇多 雅…15
元先端リハビリテーション科学コース	講師 大畑 光司… 4	検査技術科学コース	山崎(森田)真紀子…16
元先端看護科学コース	助教 須賀原教子… 4	看護科学コース	奥本 綾香…16
○新任挨拶		検査技術科学コース	鶴田 裕輔…17
先端看護科学コース	准教授 榊 由里… 5	看護科学コース	下坂 桃代…17
総合医療科学コース	教授 中村 光宏… 5	リハビリテーション科学コース 理学療法学講座	上田 泰之…18
先端看護科学コース	教授 千葉 理恵… 6	検査技術科学コース	周 徳軍…18
先端看護科学コース	教授 宮下 美香… 6	リハビリテーション科学コース 理学療法学講座	西田百合香…19
先端作業療法講座	教授 緑川 光春… 7	検査技術科学コース	森泉 元…19
総合医療科学コース	教授 錦織 桃子… 7	リハビリテーション科学コース 理学療法学講座	中尾 彩佳…20
先端理学療法学講座	准教授 林 美穂子… 8	総合医療科学コース	平田 勝啓…20
先端作業療法学講座	准教授 義村さや香… 8	○入試、修了・卒業者数	21
総合医療科学コース	准教授 森瀬 譲二… 9	○卒業生の進路調査結果	24
先端看護科学コース	助教 森西可菜子… 9	○人事異動	25
総合医療科学コース	特定助教 比良野圭太…10	○日誌	26
先端作業療法学講座	助教 小方 智広…10	○あとがき	27
○2022年度オープンキャンパス	11		



専攻長・学科長メッセージ

青山 朋樹

ようやく新型コロナウイルス感染症も5類に分類され、学内教育においてもこれまでのような対面講義、対面実習に戻ってきました。先日4年ぶりに行われた対面開催のオープンキャンパスではたくさん的高校生が集まり、久しぶりに校舎内に賑わいが戻ってきました。しかしながら京都の街にあふれる観光客の数に比べると、まだまだ校舎内は閑散としており、学生間、教員と学生間の距離もコロナ以前と比べると隔たりを感じます。コロナ禍期間において離退職された先生方の送別会、卒業生を送る会など、今からでは埋めることができない空白も生じております。

コロナ禍にあって、大きな影響を受けたのは臨床や教育面だけでなく、研究面においても同様です。臨床研究やフィールド研究においては接触を伴う測定などが困難になり、ウェット実験を主とする基礎研究もラボテーブルや機器の使用などにおいて少なくない影響を受けました。しかしながら苦肉の策として行った工夫が意外に奏功した一面もありました。特に遠方の共同研究者とのミーティングにおいてはオンラインツールが有効で、これは現在でも有効に活用されております。またIoT技術を駆使した研究手法も一気に広がり、コロナ禍前より研究が進んだ分野もあります。

皆様へのご挨拶が新型コロナウイルス感染症の暗い話題ばかりで恐縮です。そういえば明るい話題もありました。人間健康科学系専攻の教職員が一丸となって取り組んでおります全新生向けの救命講習会を受けてくれた学生2名が、今年の講習会での経験から心停止で倒れていた男性に心肺蘇生を行い、救命に成功しました。今年もオンラインで開催した救命講習会でしたので、その効果を疑問視する声もありましたが、しっかり全新生には意図が通じていたようです。これは長年にわたり、人間健康科学系専攻の教職員が取り組んでいた事の成果が、今回の明るいニュースとして顕れてくれたのでしょう。人間健康科学系専攻はレジリエンスの強い専攻です。コロナ禍で傷ついた人と人のつながりを再構築し、新たな未来を創っていきましょう。



人間健康科学系専攻の退職にあたり

元専攻長・学科長

総合医療科学コース 教授 足立 壯一

2023年3月31日を持って、長年、勤務させていただいた京都大学を早期退職し、現在は滋賀県立総合病院総長、病院長、臨床研究センター長として日々、超多忙な充実した日々を過ごさせていただいております。これも、医学研究科人間健康科学系専攻在職時に、5年以上にわたって、専攻長をさせていただき、教職員および事務職員の方々の、ご協力があったおかげと、深く感謝申し上げます。私は、1985年に京都大学小児科に研修医として入局させていただきました。当時は今のような初期研修医制度はなく、また、働き方改革とは無縁の地獄の研修医生活でしたが、看護師さんを始めとする医療専門職とのチーム医療の重要性を身をもって学ばせていただく貴重な機会であったと思います。京大小児科が参加した臨床研究グループはJACLS（小児白血病研究会）、JPLSG（日本小児白血病リンパ腫研究グループ）、そしてJCCG（日本小児がん研究グループ）と発展し、運営委員長や理事長をさせていただいたのは、組織運営を学ぶ貴重な経験でした。平成21年に、縁あって人間健康教授として着任させていただきましたが、旧検査技術コース教員としての毎日は臨床医の私にとってはカルチャーショックでした。学生の教育 duty は多く、小児科移植責任医師との2足のわらじは超多忙な毎日でしたし、私の着任時の検査コース教員とは考え方が根本的に異なり、言いたいことも飲み込む毎日でした。専攻長となってからは、組織改革の荒波にもまれた激動の時代でしたが、任教授、澤本教授をはじめとした執行部の先生方に支えられて、高度医療専門職と世界レベルの研究者育成のスタートには立てたのではないかと信じています。今までの人間健康の教員は医学研究科、京大病院との連携が希薄でしたが、特に先端看護、先端作業の多くの教員は強い連携を築いていただき、前専攻長として深く感謝申し上げます。唯一、私の心残りは総合医療科学コースの改組が中途半端になっていることですが、今後、若手の教員が中心になって、よりよい総合医療科学コースにさせていただけると信じています。退官記念講演会の時にも申し上げたように、多くの教員、学生の皆様と、充実した臨床、研究生活を送れたのは、移植コーディネーターの五井さん、がんセンターの古川さん、秘書の小林さん、長谷川さん、そして何より長年、支えてくれた家内のおかげと思っています。最後に医学研究科人間健康科学系専攻の教員の先生方の益々のご発展を祈念いたします。



退職のご挨拶

元先端看護科学コース 教授 田村 恵子

2023年3月末日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を定年退職し、4月からは大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構・教授として勤務させていただいております。

私は、2014年1月より先端看護科学コース先端中核看護科学講座に着任し、9年3か月在籍いたしました。学際的で自由な雰囲気を持った人間健康科学系専攻で、悩みつつも楽しく多くの大学院生・学部生の教育と研究指導に関わらせていただきました。また、学内の業務におきましては、高度実践研究者養成プログラム専門看護師課程の設置から運営、看護科学コースの運営などさまざまな機会を頂戴し貴重な経験をさせていただきました。多くの先生方より貴重なご指導とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

加えて、医学部附属病院緩和ケアセンター及びがん相談支援センターにおきましても、がん看護専門看護師としてがん看護に従事させていただきましたことを心よりお礼申し上げます。

大阪歯科大学におきましても、京都大学で培った教育と研究の経験を活かして、看護学分野の発展につくせるよう精進していく所存でございますので、何卒よろしく願いいたします。

末筆ではございますが、皆様のご健勝と益々のご発展を心より祈念申し上げます。



退職のご挨拶

元先端リハビリテーション科学コース 講師 大畑 光司

24年間在職した京都大学を離れることを決めたことは僕の人生にとって非常に意義深いことになりました。赴任した金沢は京都に似た情緒を持ちながら、より落ち着いて親しみやすい雰囲気があります。市内を流れる浅野川近辺には、ひがし茶屋街の古い建物が軒を重ね、文豪の泉鏡花もたびたび表現した美しさを今にも伝えています。特に飾らない、気さくな人が多い金沢の街を私自身とても気に入りました。

4月に北陸大学に移動し、未来の機器を社会に実装する目的で、大学のセンターとして「健康未来社会実装センター」を立ち上げました。まだ3、4ヶ月しか経っていないのですが、企業との新規開発案件に対する様々な契約を結び、厚労省のプラットフォーム事業にも支援型リビングラボとして参画し、大学の関連する地方自治体との協議を進め、新しい実証事業の計画を行なっています。これまで私一人では難しかった「社会を巻き込んだ事業」が一気に実現へ動き出した感があります。この大学では新たな案件やアイデアに対して、学科長、大学事務や理事、理事長に至るまで大変前向きに、ときに顔を突き合わせて相談に乗っていただけます。また、教育体制、運営体制も非常に丁寧で、高等教育推進センター主導のFDは行動目標やKPIに基づいて、実際に具体的に学生や教員をサポートしてくれます。さらに、直接の付属病院を持たないのですが、だからこそ先端的なリハを希望する病院や施設を自由にパートナーとして選ぶことができます。事実、こちらに赴任してから多くの病院、施設から直接的に声がかかるようになりました。

たしかに、これからも困難は多くあると思いますが、この体制なら自分の考える「リハビリテーションを病院から解放する」が成し遂げられるのではないかと感じました。コロナ禍で露見した施設重視のリハビリテーションの限界を超え、在宅での本当の意味でのリハビリテーションを達成する、そして、僕の関係する脳性麻痺を持つ子供達をどんな時にも支えられるような「システム」を作りたいと考えています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

退職のご挨拶

元先端看護科学コース 助教 須賀原 教子

2023年3月31日をもって、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は、2018年4月1日にダブルアポイントメント教員として着任いたしました。大学では精神看護学分野の先生方をはじめ、看護科学コースの諸先生方にご指導いただきながら、教員としてのスタートを切らせていただきました。大学院の高度実践研究者コースの立ち上げに始まり、精神看護学の教育、コロナ禍での教育をどう工夫していくかなど多くの貴重な経験をし、学ばせていただきました。病院ではリエゾンチームの立ち上げやせん妄対策の推進に関わらせていただきました。教員として、専門看護師として未熟な私を受け入れてくださり育ててくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

2023年4月からも引き続き京都大学医学部附属病院で精神看護専門看護師として勤務しております。これまでの経験や学びを活かし、今後も精神看護の発展に尽力して参る所存です。

末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の益々のご発展、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

着任のご挨拶

先端看護科学コース 准教授 榎 由里

2022年6月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端看護科学コース先端中核看護科学講座クリティカルケア看護学分野に着任いたしました榎由里と申します。この場をお借りして着任のご挨拶申し上げます。私は、約20年にわたり日本医科大学付属病院高度救命救急センターにて看護師として臨床実践を行ってまいりました。この度、ダブルアポイントメント教員として採用していただき、京都大学医学部附属病院看護部での臨床実践を行いながら教育・研究を行って参る所存です。大学院では主に急性・重症患者看護専門看護師の教育に携わらせていただき、附属病院では、院内迅速対応システム（Rapid Response System：RRS）のチームメンバーとしての活動をさせていただけます。長年の臨床経験を活かし、研究と臨床の橋渡しの役割を担い良好な患者アウトカムに繋がれるよう尽力してまいる所存です。

京都大学にて臨床・教育・研究に携わらせていただく大変貴重な機会をいただき感謝しております。少しでも人間健康科学系専攻の発展に貢献したいと考えておりますので、今後のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



着任のご挨拶

総合医療科学コース 教授 中村 光宏

2022年10月より、京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 総合医療科学コース 理工系医療科学講座 医学物理学分野の教授を拝命致しました中村光宏と申します。この場をお借りしまして、人間健康科学系専攻の皆様方にご挨拶申し上げます。

私は2004年に大阪大学 医学部保健学科 放射線技術学専攻を卒業し、2006年に同大学院 医学系研究科 保健学専攻 医療技術科学分野 修士課程を修了致しました。同年4月からは縁あって京都大学 大学院医学研究科 医学専攻 放射線腫瘍学・画像応用治療学 博士課程でお世話になることになりました。在学中は平岡眞寛名誉教授や溝脇尚志教授をはじめ多くの先生方からご指導賜り、2010年に四次元放射線治療に関するテーマで学位を取得致しました。その後、放射線治療科 医学物理士、2014年から特定講師、2017年から人間健康科学系専攻 准教授を経て、現在に至ります。

ここで私がライフワークとしている医学物理士（Medical Physicist）についてご紹介致します。医学物理士とは、国際労働機関の国際標準職分類ISCO-08において、「理工学に関連する科学的知識を医療の分野、特に放射線医学に応用する職業」と規定されている職を指します。医学物理士は更に研究医学物理士（Research Medical Physicist）と臨床医学物理士（Clinical Medical Physicist）に大別されます。研究医学物理士は放射線医学の発展に資する研究開発を行います。例えば、臨床現場で使用されている放射線治療装置の大半は欧米で開発されたものですが、そこには研究医学物理士が関与しております。一方、臨床医学物理士は臨床現場において患者の線量評価や放射線品質管理・品質保証などを担当します。これらはIAEA国際基本安全基準に臨床医学物理士が行う業務として挙げられている項目です。欧州各国では放射線治療装置1台につき1人の臨床医学物理士の配置が義務付けられていますし、米国では臨床医学物理士を養成するためのレジデントプログラムが確立されています。

私はこれまで研究医学物理士として国産放射線治療装置の開発に関与し、臨床医学物理士として放射線治療の高精度化、高精度放射線治療の普及や適応拡大に取り組むなど、医学物理士としてあるべき姿で活動して参りました。また、後進の育成にも努め、10名程度ではございますが博士号を有する医学物理士を輩出して参りました。今後は、この歩みをさらに加速させ、本邦における医学物理士のグローバル・スタンダード化を推進して参ります。

最後になりましたが、人間健康科学系専攻の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端看護科学コース 教授 千葉 理恵

2023年4月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻精神看護学分野の教授に着任いたしました千葉理恵と申します。この場をお借りしまして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は2012年に東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神看護学分野で保健学博士の学位を取得した後、自治医科大学看護学部、兵庫県立大学地域ケア開発研究所、神戸大学大学院保健学研究科で、講師、准教授、教授として勤務してまいりました。専門は精神看護学で、特に、精神疾患をもつ人が、たとえ精神症状が続いていたとしてもその人らしく暮らしていくための心理社会的な支援や、ご家族の精神健康を高めるための支援についての研究を行っております。このような研究を通して、微力ながら、精神看護学分野の学問的基盤の確立や科学的根拠に基づいたケアの実践に寄与することを目指していきたくと考えております。

このたび京都大学に着任いたしまして、素晴らしい研究をされている多くの先生方、優秀な学生たちから日々刺激をいただいています。今後はさらに、京都大学の恵まれた環境を生かして学際的な研究活動を推進し、教育活動に尽力することを通して、少しでも人間健康科学専攻の発展に貢献できるように精進してまいりたいと思います。まだまだ未熟者でありますので、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端看護科学コース 教授 宮下 美香

令和5年4月1日付で先端核看護科学講座 緩和ケア看護学分野 教授に就任いたしました宮下美香と申します。

私は、千葉大学看護学部を卒業し、千葉県がんセンター消化器外科病棟にて看護師として3年間勤務し、東京大学大学院へ進学、修了した後、聖路加国際病院緩和ケア病棟において約2年間勤務いたしました。約5年間の臨床勤務の中で、がんの治癒を目指した治療を受ける方、全人的な苦痛を有する方への看護を通じ、緩和ケア看護、がん看護の基礎を学ばせていただきました。また、カナダのモントリオールにある世界で最初に緩和ケア病棟を開設したRoyal Victoria Hospitalにて研修を受ける機会をいただき、的確な症状マネジメントとチームアプローチによる全人的ケアに感銘を受けました。

大学院では、ソーシャルサポートに焦点を当て、乳がんを経験した方への看護について研究を行いました。修士論文では横断的調査を実施し、医療者から受け取る情緒的・情動的サポート、がん経験者から受け取る情緒的・情動的サポート、およびがん経験者へ提供する情緒的・情動的サポートの心理的適応に対する有効性を示しました。博士論文では介入研究を行い、結果として仮説は支持されませんでした。乳がん経験者に対するサポートグループの効果が明らかになりました。学位論文の審査委員の先生よりいただいた「ライフワークとして続けてください」というお言葉を胸に、その後も一貫して現在まで乳がん経験者への看護を探究すべく研究を行っています。最近約10年間は、化学療法に関連した認知機能障害（いわゆるケモブレイン）をテーマとし、様々な手法を用い、評価法の開発、実態調査、介入研究に取り組んでいます。きっかけは、2011年にボストンで開催された米国がん看護学会年次大会におけるがんサバイバーの方の講演でした。そこで初めて「ケモブレイン」を知ったのですが、思い起こせば大学院時代に研究参加者のリクルート中、乳がんに対するホルモン剤を飲み忘れた方が声をかけてくださったことがあり、そのときの対応が悔やまれたことも動機となりました。幸運なことに、ケモブレインの研究を牽引する米国の看護学研究

者と国際共同研究を行う機会を得て、成果を発表することができました。引き続き、国際的な研究交流をはかり世界水準の研究を推し進めたいと思います。さらに、今後は研究成果の社会実装を目指すとともに、新たな手法を用いた先端的な研究に挑戦したいと思います。

教育については、愛知県立看護大学（現愛知県立大学看護学部）、広島大学において、成人看護学/老年看護学の基礎教育に携わりました。大学院教育では、2007年よりがん看護専門看護師教育課程を担当し、これまでに23名が修了、22名ががん看護専門看護師の資格を取得しました。本学でも優れた高度がん看護実践者を養成するとともに、緩和ケア看護学・がん看護学分野をリードする研究者の育成に努める所存です。

ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端作業療法講座 教授 緑川 光春

2023年4月より京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端作業療法講座の教授に着任いたしました、緑川光春と申します。この場をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は2007年に東京大学大学院人文社会系研究科において心理学の学位を取得した後、オレゴン健康科学大学ヴォラム研究所、同志社大学、東京女子医科大学にて研究、教育に携わって参りました。様々な分野を渡り歩いてきましたが、主に分泌を介した細胞間の情報伝達機構を研究対象としてきました。特に神経細胞間のシナプスにおける高度に洗練されたメカニズムの解明と、それが発達・学習・適応などによってどのように変化するのかに着目して研究を行っております。

今後は本専攻の優れた研究環境を活かし、これらの基礎研究をさらに発展させるとともに、臨床応用を視野に入れてリハビリ医療へと繋がるような研究を行っていきたくと考えております。人間健康科学系専攻のさらなる発展と、次世代を担う研究者・医療人の育成を目標に教育・研究活動に励む所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

総合医療科学コース 教授 錦織 桃子

2023年4月1日付で、総合医療科学コース臨床研究開発学の教授に着任いたしました。

1996年に京都大学医学部を卒業し、初期研修医・レジデントを経て、医学研究科血液・腫瘍内科学にて学位を取得いたしました。その後医学研究科の分子生物学を経て、2005年以後18年間、血液・腫瘍内科学の教員として、京大病院血液内科で入院・外来診療に従事してまいりました。また、大学院生とともにヒトの細胞やマウスを用いたB細胞リンパ腫やホジキンリンパ腫を対象とした病態解明研究に取り組んでまいりました。

血液内科は全身管理を要し各科との連携が重要であり、また患者さんとも長く向き合っていく診療科です。これまで長年病院で診療や研究に取り組んでまいりました経験を、将来医療に関わる学生の教育に様々な形で生かしてまいりたいと存じております。各疾患において分子病態の理解が進み、新たな診断・治療法も増え、医学領域に求められることも多様化しつつあることを感じております。今後皆様に御指導を賜りながら、本学科の発展に貢献できますよう、教育や研究に取り組んでまいりたいと存じます。

何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端理学療法学講座 准教授 林 美穂子

2023年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端リハビリテーション科学コース 先端理学療法学講座の准教授に着任しました林美穂子と申します。本稿をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は聖心女子大学大学院で中世・近代英文学を研究し、博士号を取得しました。その後、日本医科大学で医学英語を担当することになり、それから十年来「医学英語教育」に携わってまいりました。東京医科大学では医学英語とプロの外国人模擬患者との医療面接を実施しました。そして、現在、昭和大学、東京女子医科大学、日本大学と共同研究で医療系大学の求める 1) 研究・臨床の両面から必要かつ具体的な到達目標が可視化された Can-do リストの開発と、2) 医学生が生涯にわたり継続的に利用できる「医学英語のeポートフォリオ」の開発の研究をしています。ここで得られるeポートフォリオは医学英語に関する生涯学習のツールとして、卒前では各校のLMSに掲載し、卒業時に学修履歴をダウンロードして継続運用が可能になるようなシステムを目指しています。

「医学英語」は文字通り、医学のための英語 (English for medical purposes (EMP)) であります。ただし、これは医学分野でしか使用されない専門的な医学用語や表現 (medical English) だけに留まらず、もっと広く、医療者としてのコミュニケーションを英語で行うことができる能力です。つまり、英語を話す患者さんとのコミュニケーションでは「一般用語」を使い、英語を話す他の医療者とのコミュニケーションでは専門的な「医学用語」を使うことが求められます。更に、学術舞台に立つための英語能力 (論文読解、論文執筆、口頭発表、英語での議論) が必須です。本講座では医学英語と英語リーディングでそのコミュニケーション能力を学生たちと共に伸ばし、国際的な舞台で活躍できるようサポート、指導していきたいと思っております。

この度は着任させて頂きました先端リハビリテーション科学コース理学療法学講座でもこの英語でのコミュニケーション能力を少しでもサポートできれば幸いです。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

先端作業療法学講座 准教授 義村 さや香

2023年4月に先端作業療法学講座の准教授として着任いたしました。

私は2003年に医師となり、精神科医師として勤務し、京都大学大学院医学研究科精神医学教室で自閉スペクトラム症に関する研究で学位を取得後、京都家庭裁判所医務室技官を経て、2014年に発達障害支援医学講座の特定助教として人間健康科学系専攻へ着任いたしました。その後、先端作業療法学講座特定教員として、2019年に文部科学省により採択された京都大学における課題解決型高度医療人材養成プログラム「発達症への介入による国民的健康課題の解決」事業 (通称 ASD project) に4年半従事し、現在に至ります。

人口の10%を超えるとされる発達症をめぐる問題は、誰もが身近な問題として接する可能性のあるものです。私がこれまでに行ってきた研究の多くは、発達症が示す特徴的な行動の背景にあり、支援の方向性を考慮する際に抜きには語れない「独特の認知」に関する認知心理学 / 画像研究であり、今後も継続して、発達症支援に役立つエビデンスの創出に貢献していきたいと考えております。また、ASD project では、履修証明プログラムを通じて多職種からなる発達症支援人材を育成してまいりました。2022年度で課題解決型事業としては終了しましたが、2023年度からは参加者の職種や経験を限定しない e-learning 講座も新たに開設し、より柔軟な形で発達症の支援者育成・啓発活動を行うことを目指しています。

引き続き本専攻に所属できることを嬉しく存じています。専攻の発展に寄与できるよう努力していきたい所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

総合医療科学コース 准教授 森瀬 譲二

2023年4月1日付けで総合医療科学コース分子生命基礎医療科学分野の准教授に着任致しましたので、本誌をお借りしてご挨拶を申し上げます。私はこれまで8年間、助教として同コース（助教着任当時は検査技術科学コース）で務めさせて頂きました。助教に着任した際はちょうど本専攻の組織改革の真っただ中で、総合医療科学コースにおける臨床検査技師教育プログラムの立ち上げに微力ながら関わらせて頂きました。さらには臨床検査技師教育における厚労省指定科目の変更に際しても、カリキュラムの対応含め尽力してきた次第です。私が作成に関わったそのプログラムのもとで、本コースの学生たちが勉学に励んでいることに非常に感慨深く思うとともに、准教授として今後はその教育に一層尽力し、優秀な学生の輩出に貢献していく所存です。また私自身、本専攻の前身である保健学科の2期生であり、当時の先生方の厳しくも温かみのある指導のもと、実際に臨床検査技師免許も取得してきました。次は私が指導する立場として、そこで培ってきた知識や経験などを後輩の学生に還元していき、本専攻の発展に寄与したいと思います。

私の専門は糖鎖生物学で、タンパク質やDNAなどの生命鎖と比べると研究が進んでいない分野ではありますが、未知の糖鎖機能を解読し、糖鎖の魅力を発信していきたいと思っています。自分にできる精一杯のことをやっていきたいと思っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



着任のご挨拶

先端看護科学コース 助教 森西 可菜子

2023年4月1日付けで京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 生活習慣病看護学分野に着任致しました森西可菜子と申します。私は、2013年に本学学部の旧：看護科学コースを卒業した後、京都大学医学部附属病院での看護師経験を経て2018年より本学の生活習慣病看護学分野の修士課程に、2020年より同分野の博士課程に在籍しておりました。学部生時代から長くお世話になっている京都大学で勤めさせて頂けることを大変嬉しく思いながら、魅力的な先生方や学生達とともに刺激的な教員生活を送っております。

臨床では主に糖尿病看護に従事しており、糖尿病をもつ人々が食事療法の継続に苦しむ姿を見て、どうすれば少しでもいきいきと食事療法を続けてもらえるだろうかと頭を悩ませていました。そこから研究の道を志し、現在は糖尿病をもつ人の食事療法の動機づけとQOLに関する研究に取り組んでいます。今後も質的・量的研究の両面からアプローチを行い、研究を発展させていきたいと考えております。

大変未熟者ですが、慢性の病いととも生きる人々、その看護を学ぶ人々が少しでも楽しみながら学びを重ねていけるように、また教育・臨床・研究を繋ぐ活動ができるように、自己研鑽を重ねていく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

総合医療科学コース 特定助教 比良野 圭太

2023年4月1日付で、総合医療科学コース臨床研究開発学の特定助教として着任いたしました、比良野圭太と申します。私は聖路加国際病院と京都大学腎臓内科を経て、群馬大学医療の質・安全学分野で博士号を取得しました。臨床疫学と医療の質改善、そしてRWD（リアルワールドデータ）の解析に特に関心を持ち、東京大学医療リアルワールドデータ活用人材育成事業を修了しております。この度、臨床研究開発学の特定助教として、活動する機会を頂きまして感謝申し上げます。これまでの研究活動の中で、腎臓領域における医療の質改善やエビデンスと実際の診療プラクティスのギャップの改善に重点を置いて取り組んできました。私が心がけていることは、医療の受益者の視点を持ち患者参加型医療の視点から、大規模データを活用して臨床現場の医療改善に寄与する研究を行うことです。医療従事者や特に自治体などの医療システムと連携し、安全かつ質の高い医療の提供を実装するための実証事業に取り組んでまいります。皆様からのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

着任のご挨拶

先端作業療法学講座 助教 小方 智広

令和5年5月1日付けで京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端作業療法学講座に助教として着任いたしました、小方智広と申します。誌面をお借りして、着任のご挨拶を申し上げます。

私は名古屋大学医学部保健学科作業療法学専攻を卒業し、その後は主に精神障害領域におけるリハビリテーションの実践および研究に従事してきました。これまでの経験からリハビリテーションには幅広い視点が求められていると感じ、医学的リハビリテーションだけではなく、障害者の就労を支援する職業リハビリテーションにも取り組んできました。着任する前は、認知症施策、特に、若年性認知症の人に対する施策推進に関する事業や研究に携わってきました。これらの経験を活かしながら、新しい場所で新たな挑戦ができることを楽しみにしています。

京都大学では、精神障害領域を取り巻く様々な課題の解決、人の健康に貢献する人材の育成に微力ながら励んでいきたいと考えております。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくようお願い申し上げます。

2022 年度オープンキャンパス

2022 年度オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、WEB サイト上への動画公開というかたちで行われました（表 1）。また、人間健康科学科独自企画として、Zoom によるオンライン企画も実施されました（表 2）。アンケート調査から、いずれの企画も好評でした。

また、2023 年度のオープンキャンパスは対面形式で開催され、300 名の申し込みがございました。

表 1 オープンキャンパス 2022 コンテンツ一覧

医学部人間健康科学科
医学部人間健康科学科長 挨拶・概要説明（動画）
特色入試について（動画）
人間健康科学科オンライン相談会（配信）
先端看護科学コース <ul style="list-style-type: none"> ・コース長の挨拶（動画） ・コースの概要（動画） ・在学生の声（動画） ・OB/OG からのメッセージ（動画）
先端リハビリテーション科学コース <ul style="list-style-type: none"> ・コース長挨拶（動画） ・在学生の声 [PT]（動画） ・教員・授業紹介 [PT]（動画） ・模擬講義（動画）[PT] ・デモンストレーション [PT]（動画） ・卒業生による相談室 [PT]（動画） ・オンライン相談会 [PT]（配信） ・作業療法の紹介 [OT]（動画） ・研究紹介 [OT]（動画） ・大学院在学生・卒業生メッセージ [OT]（動画） ・講座長挨拶 [OT]（動画）
総合医療科学コース <ul style="list-style-type: none"> ・コースの概要説明（動画） ・学生の声（動画） ・学生の声 -1（動画） ・学生の声 -2（動画） ・総合医療科学コースの説明（動画）

表 2 オンライン企画概要

オンライン企画	日程	参加人数
人間健康科学科オンライン相談会	7月25日（月） ～ 8月22日（月）	50名程度
先端理学療法学講座オンライン相談会	8月9日（火）	50名程度

（人間健康教務掛）

博士授与者と論文題目

木村和夏

論文題目：“Influencing kinetic energy using ankle-foot orthoses to help improve walking after stroke: a pilot study
(脳卒中後の歩行改善のための短下肢装具の使用は運動エネルギーに影響を与える：試験的研究)”

石川信仁

論文題目：“Changes in Kihon Checklist items and new Certification of long-term care needs among Japanese community-dwelling elders
(日本の地域在住高齢者における基本チェックリスト各項目の経年変化と新規要介護認定について)”

八木優英

論文題目：“Relationship between individual forces of each quadriceps head during low-load knee extension and cartilage thickness and knee pain in women with knee osteoarthritis
(変形性膝関節症患者における低負荷膝関節伸展中の大腿四頭筋各筋の筋張力と軟骨厚・膝関節症状との関連)”

馬場千夏

論文題目：“Intraoperative hand strength as an indicator of consciousness during awake craniotomy: a prospective, observational study
(覚醒下開頭手術中の握力は覚醒度の指標となる：前向き観察研究)”

濱田昌義

論文題目：“People with High Empathy Show Increased Cortical Activity around the Left Medial Parieto-Occipital Sulcus after Watching Social Interaction of On-Screen Characters
(共感性の高い人は画面上のキャラクターの社会的交流場面を観た後に左内側頭頂後頭溝周辺の皮質活動の増強を示す)”

宇多雅

論文題目：“Factors associated with anxiety and depression in rheumatoid arthritis patients: a cross-sectional study
(関節リウマチ患者の不安および抑うつに関連する因子－横断研究)”

山崎(森田)真紀子

論文題目：“Relative hypercoagulation induced by suppressed fibrinolysis after tisagenlecleucel infusion in malignant lymphoma
(悪性リンパ腫に対するチサゲンレクルユーセル投与後に見られる線溶抑制および相対的凝固亢進状態)”

奥本綾香

論文題目：“The relationship between hospital ethical climate and continuing education in nursing ethics
(病院の倫理的風土と看護倫理に関する継続教育の関係について)”

鶴田 裕 輔

論文題目：“Establishment of the quality assurance method based on patient positioning errors for stereotactic volumetric modulated arc therapy for intracranial lesions
(頭蓋内病変に対する定位的強度変調回転放射線治療における患者位置誤差に基づく品質管理法の確立)”

中 村 和 貴

論文題目：“Health improvement framework for actionable treatment planning using a surrogate Bayesian model.
(階層ベイズモデルを利用した実行可能な健康改善プランを提案する AI 技術の開発)”

下 坂 桃 代

論文題目：“Analysis of the Clock-Reading Ability in Patients with Cognitive Impairment: Comparison of Analog Clocks and Digital Clocks
(認知機能障害を有する患者における時計を読む能力の分析：アナログ時計とデジタル時計の比較)”

上 田 泰 之

論文題目：“Comparison of shoulder muscle strength, cross-sectional area, acromiohumeral distance, and thickness of the supraspinatus tendon between symptomatic and asymptomatic patients with rotator cuff tears
(症候性・無症候性肩腱板断裂症例における肩関節筋力、筋断面積、肩峰骨頭間距離、棘上筋腱端部厚の比較)”

周 徳 軍

論文題目：“Development of a deep learning-based patient-specific target contour prediction model for markerless tumor positioning
(マーカーレス腫瘍位置決めを目的とした深層学習に基づく患者固有標的輪郭予測モデルの開発)”

西 田 百合香

論文題目：“The influence of interest in tasks on the autonomic nervous system
(自律神経系に対する課題への興味関心の影響性)”

森 泉 元

論文題目：“Individual identification of inbred medaka based on characteristic melanophore spot patterns on the head
(頭部の特徴的なメラノフォア斑点パターンに基づく近交系メダカの個体識別)”

中 尾 彩 佳

論文題目：“Effects of low-intensity torque-matched isometric training at long and short muscle lengths of the hamstrings on muscle strength and hypertrophy: A randomized controlled study
(ハムストリングスの伸張位および短縮位における低強度等尺性トレーニングが筋力および筋肥大に与える影響：ランダム化比較試験)”

平 田 勝 啓

論文題目：“Galactosidase-catalyzed fluorescence amplification method (GAFAM): sensitive fluorescent immunohistochemistry using novel fluorogenic β -galactosidase substrates and its application in multiplex immunostaining
(ガラクトシダーゼ触媒蛍光増幅法 (GAFAM)：新規の蛍光発生ベータガラクトシダーゼ基質を利用した高感度蛍光免疫組織化学とそのマルチプレックス免疫染色法への応用)”



博士号を取得して

石川 信仁

この度は、寄稿の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。私は、保健師として働く中で、既存の尺度である基本チェックリストを用いて、経年変化や介護認定のリスク要因や予防の要因について研究をしたいと考えるようになり、2018年から予防看護学分野の桂研究室で学ぶ機会をいただきました。2020年に単位取得退学した後も、リモート媒体などを通して指導を継続していただき、2022年5月に博士号を取得いたしました。

研究に対する取り組みは決して平坦なものではなく、一連のデータ収集から解析、論文化までを、進んでは戻りを繰り返しながら辿りました。博士後期課程の学びは、学問的な知識やスキルの修得だけでなく、地域で暮らす人々と向き合えたことが、当事者の体験や考えの理解を深める貴重な機会となり、未熟ながら成長を実感することができました。

今後も地域で暮らす人々の価値観や意思を尊重した地域包括ケアの実現に向けた研究と教育活動を通して、臨床や社会に貢献できるよう精進してまいります。

最後になりましたが、研究にご尽力くださいました地域の皆様、長年にわたりご指導および鼓舞激励を賜りました桂俊樹教授、古田真里枝教授、細川陸也講師、お世話になった多くの先生方、研究室の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

博士号を取得して

馬場 千夏

令和4年7月に博士号を取得しました馬場千夏と申します。この度は寄稿の機会をいただき誠にありがとうございます。

私は京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程を二木淑子教授のご指導のもと修了し、3年間急性期病院で臨床経験を得た後、平成28年に博士後期課程に入学しました。がんプロフェッショナル養成プランに参加し、がん患者の機能障害を未然に防ぐリハビリテーションの構築を目指して研究を開始しました。平成30年からは稲富宏之教授、谷向仁准教授のご指導を賜りながら、京都大学医学部附属病院リハビリテーション部に作業療法士として勤務し、臨床研究の基盤づくりを行いました。博士論文では、脳腫瘍患者を対象とした覚醒下開頭手術において、術中運動機能モニタリングとして用いた握力測定が覚醒度の指標として有効であることを明らかにしました。脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション部、人間健康科学系専攻など多分野からなる研究チームのご支援を得た経験は、私にとり最大の財産であると感じています。現在は、附属病院で勤務しつつ臨床研究を継続しています。これまでに得た経験を活かし、より一層精進してまいります。

最後になりましたが、ご指導を賜りました諸先生方、研究チームの皆様、ご協力いただいた全ての方々に、心より厚く御礼申し上げます。

博士号を取得して

濱田 昌義

2022年7月に博士号を取得いたしました、濱田昌義と申します。この度は、このような貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、共感性の高い人と低い人の社会的認知処理の特性を明らかにすることを目的に研究を行ってまいりました。脳磁場計測装置（MEG）を用いて研究を行いましたが、生理学の知識が乏しい私にとっては骨の折れる作業の連続でした。ですが、一から実験を組み立てていく過程の面白さや、データを解析する際の胸の高鳴りは今も鮮明に覚えています。

学位取得までには約8年を要しました。一人前の研究者になったとは到底言えませんが、科学に真摯に向き合うために必要な姿勢を学ぶことができました。文字通り“辛抱強く”指導してくださった松林 潤先生、不出来な私をいつもおおらかに指導してくださった三谷 章先生、共同研究者の先生方、学位申請にご尽力いただきました稲富宏之先生、支えてくださった皆さまに、この場をお借りして衷心よりお礼申し上げます。

博士号を取得して

宇多 雅

2022年9月に博士号を取得いたしました宇多雅と申します。このたびは、寄稿の機会をいただき感謝申し上げます。私は2013年4月に看護科学コースに入学をしました。博士課程に入学後は、京都大学医学部附属病院のリウマチセンターで看護師として勤務をさせて頂き、リウマチ患者さんの看護にも携わらせていただきました。臨床では患者さんのセルフケアや意思決定などの支援を行い、患者さんが日常生活や人生の中で抱える困難や希望などについても知ることができました。博士課程では、関節リウマチ患者の不安や抑うつに関連する要因をテーマに研究を行いました。博士号を取得するまでに約10年を要しましたが、その間、たくさんの方にお世話になり感謝申し上げます。ここで得た経験を大切に、これからも日々精進して参ります。

最後になりましたが、長年にわたりご指導賜りました任和子教授、お世話になりました諸先生方、研究室の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

博士号を取得して

山崎（森田） 真紀子

この度は寄稿の機会をくださり有難うございます。

私は、学部4回生から修士課程において足立壯一教授のもとで白血病の研究を行い、『三度の飯より実験が好き』と自己PRするほど、研究の楽しさに魅了されておりました。そのため進路を決める際は、そのまま博士後期課程に進むか就職するか迷いましたが、京大では働きながら博士課程に進める道があることを知り、社会に出てより幅広い視点を持つと考え、京大病院検査部への就職を選びました。そして臨床検査技師として勤務するなかで血液疾患や治療に関してさらに興味が湧き、社会人5年目に社会人大学院生として博士後期課程に入学しました。

病院で勤務しながら研究を行うことは想像以上に大変で、平日は職員食堂で晩御飯を食べてから研究をし、土日もあるような生活でしたが、自分の研究を応援してくださっている方々の存在が日々の大きな励みとなりました。悩んだ時も多々ありましたが、先生方や職場の皆様、家族や友人のおかげでどうにか踏ん張り続けられ、約6年間の両立生活を経て博士号を取得することができました。学位論文の公聴会が終わった瞬間に、お腹の中にいた我が子が「おめでとう」と言わんばかりに動き回ったことも懐かしい思い出です。出産を経て、現在は研究とはまた一味違う楽しさがある子育てに奮闘中です。

研究活動に従事していたからこそ出会えた、院内外の様々なバックグラウンドを持つ方々との繋がりに感謝し、今後も常に先を見据えて日々精進する検査技師でありたいと思います。

末筆ではございますが、学部生時代から長きにわたりご指導を賜りました足立壯一先生、学位研究を温かくご指導くださった検査部・細胞療法センターの新井康之先生をはじめ、研究でお世話になりましたすべての方々々に心より感謝申し上げます。

博士後期課程を振り返って

奥本 綾香

2022年12月に博士号を取得いたしました奥本綾香と申します。この度は寄稿の機会を頂き、ありがとうございます。

私は、京都大学の旧保健学科を卒業後、臨床看護師として働く中で感じた迷いをきっかけに、修士課程、博士課程へと進学いたしました。修士課程では、離床センサーと看護師の認識について、博士課程では倫理的風土と看護師の継続教育の関係についての研究を行いました。大学院では、様々な分野でご活躍の先生方より、広い視点からのご指導を頂く機会等を通じて、京大で学び、研究を行う素晴らしさを実感致しました。子育てとの両立は思い通りにならないことが多く、卒業までに長い期間がかかりました。しかしながら、木下先生のご指導や、現場の看護職の方々からのご協力のおかげで、無事に研究を遂行し、結果を世に送り出すことができたことを安堵しております。

現在は大学で研究員として勤務しております。ありがたいことに、開発した倫理的風土尺度の使用についてのご連絡を頂くこともあり、自分の行った研究が他の場所で展開され、更なる知見の一助となる喜びを感じております。今後も未熟ながら、患者さんや看護に関わる全ての人のよりよい生活のため、世に貢献できる研究活動を行っていきたいと考えております。

最後になりましたが、長年にわたりご指導頂きました木下彩栄先生、研究室の皆様、研究へ関わってくださった看護職の皆様々に心からのお礼を申し上げます。



博士課程を振り返って、いま思うこと

鶴田 裕輔

この度は寄稿の機会をいただき、誠に感謝申し上げます。私は、2020年4月に博士後期課程に社会人学生として入学し、2023年3月に学位を取得することができました。2009年に京都大学医学部附属病院に放射線技師として就職し、主に放射線治療に従事していました。当時、病院スタッフだった中村先生にはこの時から学会発表や論文投稿についてご指導いただいていた。自分の仕事を成果として残したいという強い思いと、中村先生が大学院・医学物理学分野の准教授（当時）に就任されたこともあり、進学を決意しました。

私の博士課程を振り返ってみると、結果として、まさにコロナ禍に研究に取り組んだ、ということになります。世界中が困難な状況に直面していた時期に、博士号を取得できて実感していることは、自分と関わった多くの人への感謝の気持ちです。京大病院に入職して以来ご指導いただいた中村先生についてはいうまでもありません。厳しさの中にも常に優しさや人間味のあるご指導をしていただきました。同期で入学した留学生の周君にも研究をサポートしていただきました。また、京大病院放射線治療科の先生方にも共同演者として研究について、熱心にご指導いただくことができました。病院勤務であったため、私はステイホームとは無縁でした。新型コロナウイルスの影響で仕事においては多くの制約や困難がありましたが、仕事に大学院生活を労ってくれた同僚である放射線技師の皆様や、他愛のない会話に付き合ってくれた看護師の皆様の心遣いには感謝してもしきれないほどです。

研究とは、多くの人の支えがあって成り立つものだと在学中に痛感しました。専門知識を学べたことも私にとっては重要でしたが、周りに対する感謝の気持ちを抱けたことがかけがえのないことだと思っています。中村先生をはじめ、研究をご指導いただいた全ての皆様、病院スタッフの皆様にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

博士号を取得して

下坂 桃代

2023年3月に博士の学位を取得しました下坂桃代と申します。2018年3月に本学の看護学専攻を卒業後に修士・博士課程に進学し、計9年間にわたり人間健康の校舎で過ごしてきました。大学入学当初から、将来は人の役に立つ研究がしたいと漠然と考えていた私にとって、在宅医療・認知症学分野の木下彩栄教授との出会いが、認知症研究の道に進むきっかけとなりました。

在学中は、認知症患者における生活障害に着目し、生活障害の早期発見のための新規評価ツールの開発や、認知機能が低下しても理解しやすい製品のインターフェイスデザインに関する研究を進めて参りました。認知症専門医、作業療法士、医療統計、産学連携部門、プロダクトデザインの専門家をはじめとして、様々な分野の先生方とディスカッションを重ねて研究を進めた経験は、私にとって貴重な財産となり、研究の楽しさを実感できた場面でもありました。

また、修士課程在籍時より、院生生活と並行して看護師としての勤務を始めました。大学で得られた知識に加え、臨床現場での認知症看護の実際を経験し、疾患に対する理解をより深めることができました。今後は臨床現場での経験を積みつつ、認知症になっても自立した生活を営むことができるような社会実現を目指して、これまでの研究を更に発展させるべく、努力して参りたいと思っております。

最後になりますが、これまでの院生生活は沢山の皆様のご協力の上に成り立っていたように思います。学部生の頃よりご指導頂きました木下彩栄教授をはじめ、木下研究室の皆様、研究に協力頂きました全ての皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



博士号を取得して

上田 泰之

2023年3月に博士号を取得いたしました上田泰之と申します。今回、寄稿の機会をいただきありがとうございます。私は、信原病院で理学療法士として勤務しながら、博士課程に進学しました。研究テーマとしては肩腱板断裂症例の疼痛に関連する因子の検討を行いました。肩腱板断裂症例では断裂があると必ず症状がでるわけではなく、凡そ1/3程度の症例に症状がでることがわかっていました。そこで、断裂があるが症状の出る症例とそうでない症例の肩関節機能の差異について明らかにしました。二足の草鞋でなかなか研究をうまく進めることができませんでしたが、市橋則明教授はじめ研究室のメンバーの方々温かいご指導、ご支援のもと無事に修了することができました。今後は京都大学で学んだことを、臨床・研究・教育にしっかりと生かし、社会に還元できるよう努めてまいりたいと思っています。

最後になりましたが、長きにわたりご指導賜りました市橋則明教授、研究室の皆様に心より感謝申し上げます。



博士後期課程を振り返って

周 徳軍

令和5年3月に博士後期課程を修了いたしました、周徳軍と申します。この度は、広報への寄稿という貴重な機会を頂きましたことに感謝申し上げます。

私は初めて医学物理学について北京大学の修士課程で知りました。その時が私にとって、がん患者を助けるために自分の背景とスキルを使うことができることを知った初めての時でもありました。2018年に修士課程を卒業した後、28歳で私のキャリアを諦め、医学物理士を目指すために準備を始めました。

当時私は医学の背景がなかったため、将来の基盤を築くために医学物理学の博士課程を追求することに決めました。私は医学の背景を持っていない人でも応募できる、京都大学の医学物理学の博士課程に応募しました。2020年4月にプログラムを開始しました。しかし、パンデミックのため、2020年4月から11月まで、日本に入学できなかったため、中村先生とグループと遠隔で協力し、Zoomを通じて研究についての講義や議論を行いました。日本に入学し、京都大学医学部附属病院でより多くのリソースと臨床実習の機会を得た後、博士課程の最大の利点は研究と臨床トレーニングの組み合わせだと気づきました。私の以前の職務経験には加速器の設置と調整、放射線測定が含まれており、これらの経験は私が医学物理学における臨床実習のタスクをスムーズに理解し、実行するのを助けてくれました。また、私のプログラミングの背景は研究の進捗を加速しました。私はPythonとMATLABでAIモデルを実装し、C#でEclipseプラグインを書くことができます。博士課程中には、私が筆頭著者として5つの論文を発表しました。

最後になりますが、これまでご指導を賜りました中村光宏教授、京都大学医学部附属病院放射線治療科のスタッフの皆様、医学物理研究室の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

博士号を取得して

西田 百合香

令和5年3月に博士号を取得致しました西田百合香と申します。このような貴重な機会をいただき、大変にありがとうございます。

私は精神科におけるリハビリテーションの基礎研究として、その効果を少しでも可視化し理解を広げることに関与できればと、作業活動に対する興味関心の影響性を客観的指標から検討しました。臨床での勤務との両立含め、学位取得までに様々な困難もありましたが、その度に原点に立ち返り、患者さんや社会のためにと自身を奮い立たせ、また先生方や周囲の皆様を支えられて、完遂することができました。京都大学に縁し、大学時代、大学院時代を通し幅広い分野の方に出会えたこと、知識・技術をご教示いただき視野を広げられたことや、恵まれた環境で学ばせていただき、様々な経験を得られたことは今後の人生における大きな財産です。

現在は精神科病院で作業療法士として勤務しております。これまでの学びを活かし社会へ貢献できるよう、また博士号取得へ至った自身の使命を果たせるよう、支えてくださった皆様へご恩返しのできる思いで今後も臨床、研究、教育等に精進して参ります。

最後になりましたが、研究にご参加くださった皆様、ご指導いただきました多くの先生方、研究室の皆様、支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

博士号を取得して

森泉 元

2023年5月に博士号を取得しました、森泉元と申します。この度は本寄稿の機会をいただき誠にありがとうございます。

私は研究室に配属された学部4年生から博士課程を修了するまでの6年間、研究室オリジナルの高解像度MRIを利用したin vivo イメージングや病理学的アプローチにより、ヒト疾患モデル小型魚類の解析を行ってきました。同時に、実験結果の信頼性・再現性を高めるために重要な、実験動物を環境的に制御する手法の研究も行いました。うまく結果が出ない時、アイデアに行き詰まる時もありましたが、研究を行う上で必要なスキルや、医学、生物学、工学など多岐にわたる分野の知識を身につけることができ、非常に有意義な大学院生活でした。

現在は民間企業でMRIのシーケンス開発に従事しています。環境は変わりましたが、大学院で得た知識・経験が多くの場面で役立っています。学位取得はゴールではなくあくまで通過点に過ぎないと肝に銘じ、医療の進歩に貢献できるようこれからさらに精進してまいります。

最後になりますが、長きにわたり熱心にご指導くださった杉本直三教授、上野智弘助教（現准教授）にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

博士号を取得して

中尾 彩佳

2023年5月に博士号を取得いたしました。2011年に人間健康科学科に入学後、修士課程、博士後期課程と進学し、この度ようやく博士号を取得することができました。長きにわたりご指導を賜りました市橋則明先生、研究室の方々およびご協力くださった皆様に深謝いたします。

私は部活動や病院見学の経験から理学療法士を志し、学部に入學した頃は、卒業後は臨床現場で働こうとしか考えていませんでした。しかし、授業や臨床実習を経る中で、物事の真偽を判断する力や疑問を解決する力を身につけたと思うようになり修士課程に進学し、研究をより深めるために博士後期課程に進学しました。博士学位論文では、低強度でも効果的なトレーニング方法について、トレーニングを行う肢位に着目して検討しました。8週間の介入研究は想像以上に大変でしたが、研究疑問を解決するための方法を考え、実践して答えを出すという一連の流れを経験できて、とてもワクワクしました。研究活動に加えて、大学院在学中は附属病院での臨床業務にも従事させていただき、研究者として、また理学療法士としての基礎を築くことができたかけがえのない5年間だったように思います。周りは熱意と能力ある先輩方や同期ばかりで、進捗が遅い自分を情けなく思うこともありましたが、恵まれた環境で過ごすことができたことを大変ありがたく思っています。

現在は、関西医科大学リハビリテーション学部にて教員をしております。面白い研究ができるよう、また、学生にも理学療法の面白さを感じてもらえるような教育ができるよう、精進していきたいと思っております。

博士号を取得して

平田 勝啓

私の研究テーマは β -ガラクトシダーゼを利用した高感度蛍光免疫染色法（酵素抗体法）の開発でした。中根一穂先生が1967年に発表された酵素抗体法は医学生物学研究、特に病理診断において不可欠な技術として全世界で利用され、近年は多重染色法を利用し空間情報を加味した解析手法が腫瘍微小環境や炎症性疾患などの研究に盛んに応用されています。本研究の成果が関連分野の技術向上に応用されることを期待しています。

私は本専攻の前身である医療技術短期大学部および大阪大学医学部保健学科を卒業し、京都大学医学部附属病院病理部で臨床検査技師・細胞検査士としての業務の傍ら病理分野の技術開発や臨床病理学的研究に参画してきました。今後も病理部において研究活動を継続していますので、共同研究などの機会がありましたらお声掛けいただければ幸いです。

最後になりますが、私を研究生として受け入れてくださった足立壯一先生、病理部の病理医・臨床検査技師に感謝申し上げます。

人間健康科学系専攻・人間健康科学科 令和5年度入学試験結果及び令和4年度修了・卒業者数

令和5年度 医学部人間健康科学科入学試験結果

コース・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	特色	20	47	16	16
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	特色	5	18	5	5
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)	特色	5	15	3	3
一括	一般	70	268	84	83
合計		100	348	108	107

令和5年度 医学部人間健康科学科（2年次学士）入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	12	15	3	3
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	5	5	2	2
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		2	0	0
合計	17	22	5	5

令和5年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）

入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース { 専門看護師課程（内数） } 【高度実践助産学系（内数）】	70【10】	31[3] {3[2]}	20[2] {2[1]}	18[2] {1[1]}
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)		18[0]	15[0]	15[0]
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		5[0]	3[0]	2[0]
総合医療科学コース		38[2]	36[1]	35[1]
合計	70	92	74	70

[]の数は、社会人特別選抜（内数）

令和5年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）

入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	25	11[1]	11[1]	11[1]
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)		7[3]	6[3]	6[3]
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		3[1]	2[0]	2[0]
総合医療科学コース		2[1]	1[1]	1[1]
合計	25	23	20	20

[]の数は、内部進学試験（内数）

令和4年度 医学部人間健康科学科卒業生数

コース・専攻	卒業生数
先端看護科学コース	29
先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座） 理学療法学専攻	20 1
先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）	7
総合医療科学コース	45
合計	102

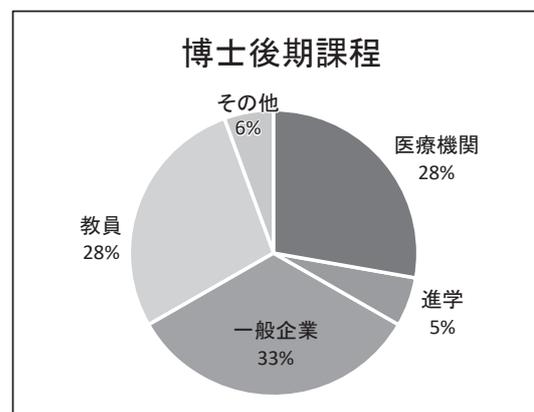
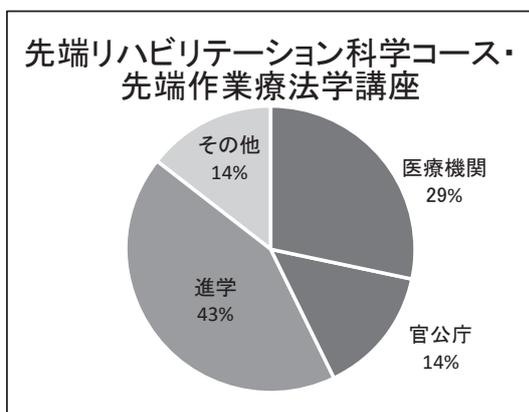
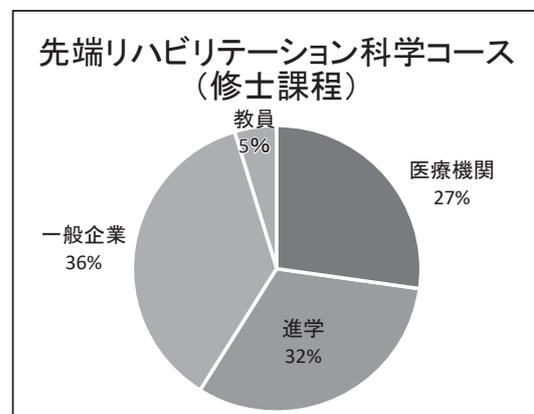
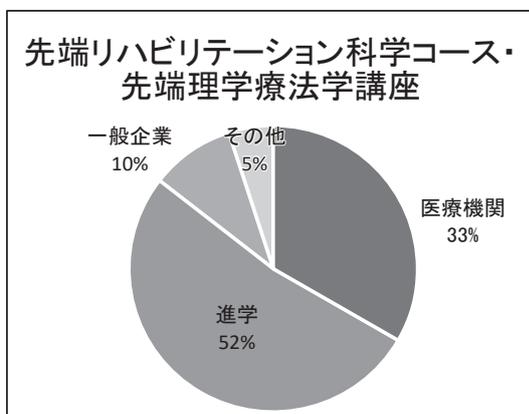
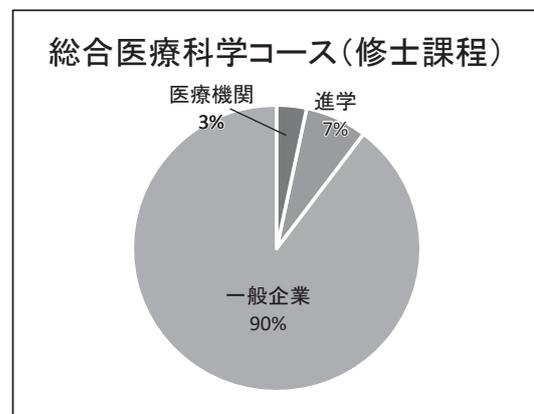
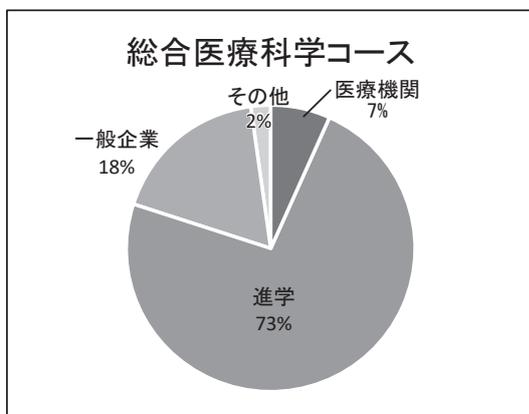
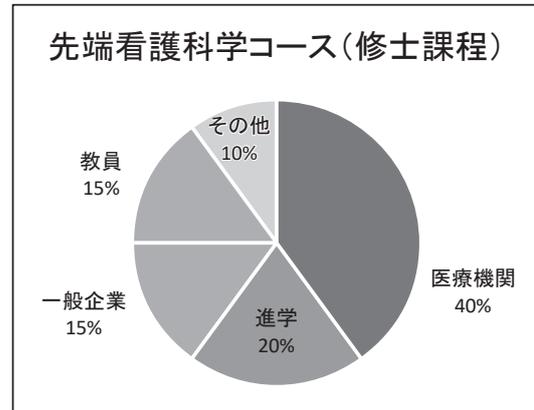
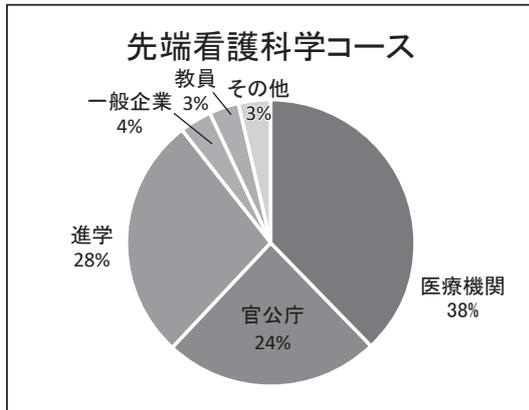
令和4年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

コース	修了者数
先端看護科学コース 【高度実践助産学系（内数）】 看護科学コース	19 【6】 1
総合医療科学コース	30
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	16
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)	6
合計	72

令和4年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース	5
検査技術科学コース	3
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	4
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	2
合計	14

令和4年度（2023年3月） 卒業・修了生の進路調査結果



人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
令和4年6月1日	准教授	榊 由里	先端中核看護科学講座	採用
令和4年7月1日	特定助教	中澤 麻衣	先端基盤看護科学講座	採用
令和4年8月31日	特定助教	河合 良子	臨床系医療科学講座	辞職
令和4年9月30日	特定助教	佐藤 憲明	先端基盤看護科学講座	辞職
令和4年10月1日	教授	中村 光宏	理工系医療科学講座	昇任
令和4年10月1日	講師	小島 諒介	医療 DX 教育研究センター	配置換
令和4年10月1日	特定教授	益田 勝吉	食と健康科学研究講座（産学共同）	採用
令和5年3月28日	准教授	下野 昌宣	情報理工医療科学講座	辞職
令和5年3月31日	教授	足立 壯一	臨床系医療科学講座	辞職
令和5年3月31日	講師	大畑 光司	先端理学療法学講座	辞職
令和5年3月31日	講師	前田 祐子	先端理学療法学講座	定年退職
令和5年3月31日	教授	田村 恵子	先端中核看護科学講座	定年退職
令和5年3月31日	教授	十一 元三	先端作業療法学講座	定年退職
令和5年3月31日	助教	清水 彬礼	先端中核看護科学講座	辞職
令和5年3月31日	助教	井沢 知子	先端中核看護科学講座	辞職（配置換）
令和5年3月31日	助教	須賀原 教子	先端中核看護科学講座	任期満了
令和5年3月31日	特定助教	佐伯 純弥	予防理学療法学講座（産学共同）	任期満了
令和5年3月31日	特定准教授	太田 恵	予防理学療法学講座（産学共同）	任期満了
令和5年3月31日	特定教授	林 悠	先端作業療法学講座	任期満了
令和5年4月1日	教授	千葉 理恵	先端中核看護科学講座	採用
令和5年4月1日	講師	伊藤 明良	先端理学療法学講座	昇任
令和5年4月1日	教授	緑川 光春	先端作業療法学講座	採用
令和5年4月1日	教授	梁 楠	先端作業療法学講座	昇任
令和5年4月1日	准教授	義村 さや香	先端作業療法学講座	採用
令和5年4月1日	准教授	林 美穂子	先端理学療法学講座	採用
令和5年4月1日	助教	森西 可菜子	先端中核看護科学講座	採用
令和5年4月1日	助教	黒田 貴子	先端中核看護科学講座	配置換
令和5年4月1日	准教授	森瀬 譲二	基礎系医療科学講座	昇任
令和5年4月1日	教授	錦織 桃子	臨床系医療科学講座	昇任
令和5年4月1日	教授	宮下 美香	先端中核看護科学講座	採用
令和5年4月1日	特定助教	比良野 圭太	臨床系医療科学講座	採用
令和5年4月1日	特定助教	植田 彰彦	先端基盤看護科学講座	採用
令和5年5月1日	助教	小方 智広	先端作業療法学講座	採用

日 誌 (R4.4 ~ R5.3)

4.4	学部2 回生ガイダンス	9.1	病院協議会 教務・教育委員会
4.5	大学院新入生ガイダンス	9.8	臨時教授会 医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
4.7	病院協議会 学部入学式 大学院入学式 学部新入生ガイダンス	9.9	2 年次学士入学試験合格発表 大学院修士課程入学試験合格発表
4.14	医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学教授会 教務・教育委員会	9.12	拡大執行部会議
4.18	拡大執行部会議	9.15	研究紹介(講演)(オンライン) 教員会議 教授会・学系会議
4.21	研究紹介 教員会議 教授会・学系会議	9.21	執行部会議
4.25	執行部会議	9.22	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
4.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		
5.10	病院協議会	10.6	病院協議会 教務・教育委員会
5.12	医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学教授会 教務・教育委員会	10.13	医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学教授会
5.16	拡大執行部会議	10.17	拡大執行部会議
5.19	教員会議 教授会・学系会議	10.19	解剖体祭
5.21	大学院説明会[先端作業療法学講座] 大学院説明会[先端看護科学コース]	10.20	教員会議 教授会・学系会議
5.24	執行部会議	10.26	執行部会議
5.26	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	10.27	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
5.28	大学院説明会総合医療科学コース]		
6.2	病院協議会 教務・教育委員会	11.1	大学院博士後期課程入学試験
6.9	執行部会議 医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学教授会	11.8	病院協議会
6.11	大学院説明会[先端理学療法学講座]	11.9	過半数代表者選挙投票日
6.13	拡大執行部会議	11.10	医学研究科会議・医学教授会 教務・教育委員会
6.16	研究紹介 教員会議 教授会・学系会議	11.12-13	特色入試第2 次選考
6.18	創立記念日	11.14	拡大執行部会議
6.22	執行部会議	11.17	教員会議 教授会・学系会議
6.23	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 人間健康科学 V 説明会(オンライン)	11.19-22	11 月祭
7.7	病院協議会 教務・教育委員会	11.24	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議
7.14	執行部会議 医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学教授会・臨時教授会	11.25	博士後期課程入学試験合格発表
7.19	拡大執行部会議	11.30	執行部会議
7.21	教員会議 教授会・学系会議	12.1	病院協議会 教務・教育委員会
7.27	執行部会議	12.8	医学研究科会議・医学教授会
7.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	12.12	拡大執行部会議
7/20-9/30	オープンキャンパス(オンライン)	12.15	教員会議 教授会・学系会議
8.15-17	夏季一斉休業	12.21	執行部会議
8.19	2 年次学士入学試験	12.22	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
8.23	大学院修士課程入学試験	12.24	京都大学医学教育ワークショップ(KUROME) (オンライン)
		1.4	新年挨拶会
		1.5	病院協議会 教務・教育委員会
		1.12	医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
		1.14-15	大学入学共通テスト
		1.16	拡大執行部会議
		1.19	教員会議 教授会・学系会議
		1.25	執行部会議

日 誌 (R4.4 ~ R5.3)

1.26	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会	3.2	病院協議会 教務・教育委員会
2.2	病院協議会 教務・教育委員会	3.9	臨時教授会 医学部教授会 医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会
2.9	医学研究科会議・医学教授会	3.10	学部入試合格発表
2.10	臨時教授会	3.13	拡大執行部会議
2.13	拡大執行部会議	3.16	人間健康 FD 討論会 (オンライン) 研究紹介 教員会議 教授会・学系会議
2.14	特色入試合格発表	3.22	執行部会議
2.16	教員会議 教授会・学系会議	3.23	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 修士・博士学位授与
2.22	執行部会議	3.24	修士・博士学位記授与 学部学位記授与
2.24	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会	3.25	臨時教授会 医学部教授会
2.25-26	学部入試		

あとがき

未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、本年も無事に広報をお届けする事ができました。本誌では、本学科を取り巻く組織改革や人事異動を皆様に正確にお伝えするとともに、学位取得者の声や開催行事などご紹介したいと思っております。今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

(奥野 恭史)



<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

